

事業所名		いっぽ				支援プログラム		作成日	令和7年	11月	10日
法人（事業所）理念		幼少期に必要な生きる力（呼吸、睡眠、摂食、排便等）や感覚、運動、対人関係の形成などで持つ課題を具体的に評価し専門的かつ個別療育指導し、家族の不安の軽減をはかり、生き活きとした児と家族の生活を支援する。									
支援方針		具体的な目標を持ち、楽しく、そして、子どもが一生懸命取り組み、夢中になれる支援内容を常に検討し実施する。									
営業時間		8時半	から	12時半	まで	13時半	から	17時半	まで	送迎実施の有無	なし
		支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	呼吸・摂食・排泄・睡眠などの安定を図り、そのお子さんと家族にあった生活リズムを形成し、暮らしに必要な体力、健康の基盤をつくる。									
	運動・感覚	安定した姿勢を保ち、発達段階に適した感覚運動機能を促し、遊びや生活に取り入れることが出来る。拘縮や変形の抑制に努め円滑な運動能力を促す。									
	認知・行動	おかれた状況を視覚、聴覚、触覚などの感覚機能を通して理解する事を支援し、また、自分が思う意思の表出、行動に移せるように支援する。									
	言語 コミュニケーション	他者の身振りや言葉に注意を傾けることが出来る。自身の思いを身振りや、発声、言葉で表現出来る。基本の挨拶。相手への感謝。自分を守る言葉（いやよ。だめよ）そういった言葉の持つ概念の理解を十分に行い、表出言語や聴き取りの能力を高める。									
	人間関係 社会性	自分を知る→家族を知る→他者の理解といった関係性の発達の質を評価し、発達段階に適した丁寧な関係性の構築をはかれるよう支援する									
家族支援		我が子に対する漠然とした不安のなかで、療法士が解決できる課題を具体的に抽出し家族が児に対して実際に対応出来る方法を一緒に行い家族が能動的に課題解決できるように支援する。						移行支援	小学校進学や放課後デイサービスの移行時には、家族の承諾のもと、地域療育中枢機関に適切な情報を提供し、学校や放課後の暮らしに円滑に移行できるよう努める。		
地域支援・地域連携		市区町村の中核発達支援センター、保育園、幼稚園、訪問リハビリテーション、他の児童発達支援事業所、子ども家庭センター						職員の質の向上	学会、研修会の参加・他事業所への見学・職員相互の勉強会・職場内発表会		
主な行事等		創作発表会　集団遊びの日。									